

実情や内実の存在を合図する英語の構文 – Here's the thing 構文の意味と機能 – *

大竹 芳夫

1. はじめに

英語には“Here is”やその縮約形“Here's”がその補部に“the thing”を従える構文がある（以下、用例中の下線、二重下線、波線、破線表示は筆者による）。

- (1) a. I told her that I was making \$150,000 a year. Here is the thing: I was not making nearly that amount. (G. Francois, *The Adversity Success Principles*)
(私は彼女に、年間15万ドルを稼いでいると話した。しかし、打ち明けなければならないことがある。実は、私はそのような額を稼いではいなかったのだ。)
- b. “Here's the thing,” she said to the cat. “That mean old skunk is gone, so you're safe now. But I can't let you in the house smelling like that, Tom, sorry. The worst part's over.” (S. Summers and T. Milburn, *Two for the Texan*)
(「お話があるわ。」彼女は猫に言った。「あの意地悪なスカンクはもういなくなったのよ。だからもう安心よ。でも、あんな臭いのする家にあなたを入れることはできないのよ、トム、ごめんね。でも最悪な状況は終わったのよ。)」
- c. “I'm not talking anymore until a lawyer comes.” “Here's the thing, Danny,” the detective said. He intertwined his thick fingers and leaned across toward him. “All my colleagues think you're guilty. But I don't. My gut feeling is you're innocent.” (D. McNicholl, *Twisted Agenda*)
(「弁護士が来るまで、もう話さない。」「話しがある、ダニー。」と刑事は言った。刑事は太い指を絡ませ、ダニーの方に身を乗り出した。「同僚は全員君が有罪だと思っているんだ。でも私は違う。私の直感では君は無実だ。)」

これらの構文はその直後に、聞き手には容易には知りがたい実情や内実が表現される点に特徴がある。たとえば、(1a)の“Here is the thing”は直後に符号コロンを介して、“I was not making nearly that amount”（私はそのような額を稼いではいなかったのだ）という実情の存在を合図している。(1b)の“Here is the thing”は話し手が飼った猫を家に入れることができないことの内実の存在を切り出している。また、(1c)の“Here's the thing”は“All my colleagues think you're guilty. But I don't. My gut feeling is you're innocent.”（同僚は全員君が有罪だと思っているんだ。でも私は違う。私の直感では君は無実だ）という内情の存在を合図している。

本研究では“{Here is / Here's} the thing”の連鎖をもつ構文をHere's the thing構文と便宜的に呼び、実際の言語資料を観察しながらその意味と機能を解明する。

2. Here's the thing構文の形式

Here's the thing構文の意味と機能を詳しく論ずる前に、形式上の特性について確認しておこう。Here's the thing構文の補部“the thing”は単独で生ずるだけでなく、しばしば様々な修飾表現によって限定される。

第一に、“the thing”が形容詞による修飾を受ける場合がある。次の例では“the thing”が形容詞bigやbiggest(=(2a))、curious(=(2b))による修飾を受けている。

- (2) a. Now, all this space talk might make us feel small and insignificant, but here's the thing, here's the big thing, here's the biggest thing of all: Of the millions of places we've ever seen, it appears as though Earth is the only place that can support life.

(N. Pasricha, *The Book of Awesome*)

(さて、このような宇宙の話をする、私たちはちっぽけで取るに足りない存在だと感じるかもしれません。しかし、知っておくべきことがあります。重要なことです。もっとも重要なことです。それは、私たちがこれまで見てきた何百万という場所の中で、地球だけが生命を維持できる場所であるように思われることです。)

- b. The men have never met before, although they have spoken on the phone. Now, at last, they find themselves face to face. And here's the curious thing: it's the same face.

(*The New Yorker*, March 17, 2014)

(その男たちは電話で話したことはあるが、会ったことはなかった。今、ついに彼らは顔を合わせている。ところが不思議なことがある。同じ顔なのだ。)

第二に、本構文の“the thing”が前置詞句を伴って生ずる場合がある。次の例では、“the thing”が前置詞about(=(3a))、with(=(3b))、on(=(3c))、of(=(3d))に導かれる前置詞句による修飾を受けている。

- (3) a. This is the script, familiar to veterans of Macworld Expos ever since Jobs returned from exile. But here's the curious thing about Tuesday's performance: from this point on, the script got lost. (TIME, May 2, 2001)

(ジョブズが追放から復帰して以来、これはMacworld Expoの常連たちにはおなじみの演出だ。しかし、火曜日のパフォーマンスについては不思議なことがある。この時点から、脚本が迷走していったのだ。)

- b. And that's when my cell phone rang. Here's the thing with the cell phone: it's my lifeline to my restaurant, and more importantly, to the love of my life, my wife, Mary. Mary and I have been together for about twelve years and we're just as in love.

(K. Witherspoon, A. Friedman, *Don't Try This at Home*)

(その時、私の携帯電話が鳴りました。携帯電話について伝えておくことがあります。携帯電話は私のレストランへのライフラインであり、さらに重要なことに、私の生涯の恋人である妻のメアリーへのライフラインでもあるのです。メアリーと私は12年ほど一緒にいますが、今も変わらず愛し合っているのです。)

す。)

- c. <手に持っている小立像のリカーボトルを聞き手に説明している場面>
Well, see, here's the thing on this. It's a Johnny Reb bottle, early 1970s. One of the J&R Whiskey Liquor Lads.

(アニメーションの台詞: “The Simpsons” Homer’s Phobia (Series 8, Episode 15))
(ええっと、これについて知っていることを話すよ。1970年代初期のジョニー・レブのボトルだ。J&Rウイスキー・リカー・ラッズの1本だね。)

- d. Kendall looked puzzled. “If you were already looking for a wedding spot in California, how did you end up in Boston?” Beverly let out a heavy sigh. “Well, here's the thing of it. It seems we'll be staying on the east coast for a bit.”

(K. O’Sullivan, *My Kind of Crazy*)

(ケンダルは不思議そうな顔をした。「カリフォルニアですでに結婚式の場所を探していたのなら、どうしてボストンに落ち着いたの？」ビバリーは大きなため息をついた。「まあ、それには事情があります。実は、しばらく東海岸に滞在することになりそうなんです。』)

第三に、本構文の“the thing”がto句やthat節によって後位から修飾を受ける場合も確認できる。(4a)では“the thing”がto句による修飾を受けて「心に留めておくべきことがあります」という意味を、(4b)では“the thing”がthat節による修飾を受けて「トム・クルーズについてあなたが理解しておかなければならないことがあります」という意味を表している。

- (4) a. Here's the thing to keep in mind. You are responsible for your own happiness. You can ask for what you want, but no one is obligated to please you.

(K. Bentley, *The Power to Stop Any Out-of-Control Behavior in 30 Days*)

(心に留めておくべきことがあります。自分の幸せは自分でつかむものなのです。欲しいものを求めることはできますが、誰もあなたを喜ばせる義務はないのです。)

- b. Aside from being a giant action star, here's the thing that you have to understand about Tom Cruise: the man loves The Movies. (*Insider*, July 19, 2023)

(超大物アクションスターであることはさておき、トム・クルーズについてあなたが理解しておかなければならないことがあります。実は、この男は映画が大好きなのです。)

また、実際の言語資料を観察すると、次の用例のようにHere's the thing構文が後続する“Here's the other thing.”(他にも伝えたいことがある)や“Here's another thing.”(さらに伝えたいことがある)と呼応して発話される場合もあることが確認できる。

- (5) a. Here's the thing: It turns out that the two men in the altercation know each other, so it wasn't totally random. Here's the other thing: The guy with the gun was never caught by police. He's still out there somewhere. (*Florida Today*, Dec. 14, 2016)
(お伝えすることがあります。口論になった2人の男は互いに知り合いであったことが判明し、まったくの無差別だったわけではなかったのです。もう一つお伝えすることがあります。銃を持っていた男は警察に捕まっていません。男はまだどこかにいるのです。)
- b. Aging? OK, so maybe you would prefer not to think about it! But here's the thing: your fifties, sixties and seventies are coming anyway. And here's another thing: if it's unmentionable, it's unmanageable. (*A. Heeks, Out of the Woods*)
(老化? そうですね、たぶんあなたはそのことについて考えたくないでしょう! しかし、心に留めておくべきことがあります。50代、60代、70代はいずれやってくるのです。そしてもうひとつ。もしそれが口に出せないのならば、もう手に負えない状態なのです。)

なお、Here's the thing構文は肯定形が基本形であり、疑問形や否定形は容認されないという形式上の制約がある点にも注意されたい。

- (6) *Is here the thing?
(7) *Here isn't the thing.

本節では、Here's the thing構文の形式上の特性について確認した。次節以降ではHere's the thing構文の意味と機能について考察する。

3. Here's the thing構文の意味特性

本節ではHere's the thing構文の意味特性について考察する。談話で頻用されるHere's the thing構文であるが、従来の記述文法書では取り上げられてはいない。辞書においても成句としての意味や機能が記述されているものは限られている。たとえば、*Merriam-Webster.com Dictionary*では、“the thing”の項に(8)の定義とHere's the thing構文の例文が提示され、本構文の“the thing”が「あることの理由」(the reason for something)の意味を表すと説明されている。

- (8) the thing
3. the reason for something
OK, here's the thing: I don't have enough money to go to college.
(*Merriam-Webster.com Dictionary*, <https://www.merriam-webster.com/dictionary/dictionary>)

しかしながら、本構文の“the thing”を「あることの理由」(the reason for something)と定義するのは不十分である。“the thing”と“the reason”は意味が異なる。

り、それぞれに存在理由があるからである。その証拠として、言語資料を観察すると、ある事柄の「理由」の存在を合図する“Here’s the reason.”という表現が別個に存在すること(=(9a))、同一話者によって“Here’s the thing.”と“Here’s the reason.”とが使い分けられているという事実(=(9b))があげられる。

- (9) a. “I’m glad you’re speechless. That means I’ve accomplished my first objective. Here’s the reason.” She handed them the letter. “I want Chief Rossiter to believe in me and my proposal.” (R. Winters, *The Bachelor Ranger*)

(「あなたが何も言わずにいてくれてうれしいわ。それは私の最初の目的が果たせたということなの。理由があるわ。」彼女は彼らに手紙を渡した。「私はロシター署長に私と私の提案を信じてもらいたいのだ。」)

- b. But here’s the thing, and the reason why *Maybe I Do* is on life support almost from the get-go: Writer/director Michael Jacobs isn’t content with making us laugh and, maybe, learn a little bit about human nature along the way.

(*The Saturday Evening Post*, Jan. 26, 2023)

(しかし、知っておくべき事情、さらには映画『Maybe I Do』がほとんど初っ端から生命維持装置につながれている理由がある。脚本・監督のマイケル・ジェイコブスは、私たちを笑わせ、その流れで人間の本性について少し学ばせるだけでは満足してはいないということなのだ。)

本構文の“the thing”は「理由」といった個別的、具体的な意味ではなく、より包括的な「実情」や「内実」を表すところに特徴がある。*Collins English Dictionary*は本研究対象である“Here’s the thing.”は取り上げてはいないが、thingの項で(10)のような定義を記載している。

- (10) You often use **thing** to indicate to the person you are addressing that you are about to mention something important, or something that you particularly want them to know.

(*Collins English Dictionary*, <https://www.collinsdictionary.com/jp/dictionary/english>)

(重要なことや特に知っておいてもらいたいことを言おうとしていることを聞き手に示すために、しばしばthingを使う。)

本構文の“the thing”は(10)に定義されるような「聞き手に特に知っておいてもらいたい」実情や内実を表現すると考えられる。なお、“the thing”の意味に関連する議論の詳細は大竹(2021)を参照のこと。

さて、“Here’s the thing.”を記載する辞書にオンライン版の『ロングマン英和辞典』がある。オンライン版の『ロングマン英和辞典』は(11)のように本構文の使用域に言及し、アメリカ英語の口語であると説明している点、「話の導入などとして」用いられるという点は事実を正しく反映しており評価できる。

(11) here's the thing 米 〔話〕

(話の導入などとして) 実はね

- Here's the thing. There were fresh flowers on his grave.

実はね、彼の墓に新しい花が供えてあったんだ。

(『ロングマン英和辞典』, <https://www.ldoceonline.com/jp/dictionary/english-japanese/>)

ただし、『ロングマン英和辞典』は“Here's the thing.”の訳語として「実はね」という日本語を与えるにとどまっており、同じ日本語に対応する副詞句“the thing is”との区別ができない。たしかに、“the thing is”とHere's the thing構文の発話環境は類似している。たとえば、次例のように両者が連続して生起する場合がある。

(12) a. The thing is ... here's the thing. The thing is, me and Katie, we're not boyfriend and girlfriend. In fact I've barely spoken to her in the last two weeks.(S. Penney, *The Invisible Ones*)

(実はね...打ち明けなければならないことがある。実はね、僕とケイティはボーイフレンドとガールフレンドではないんだ。実際、この2週間、僕は彼女とはほとんど話していないんだ。)

b. “Really, it's not about that. You were just doing your job. But here's the thing. The thing is, Rick had seven hundred thousand. Not five—seven. So all's he wants back is the two hundred thousand. That's pretty reasonable. [...].”(G. Blunt, *Forty Words for Sorrow*)

(「本当は、そうじゃないんだ。君は自分の仕事をしたまでだ。だが、知っておくべきことがある。実は、リックは70万ドルを持っていたんだ。5じゃなく7なんだ。彼が返してほしいのは20万ドルだけなんだ。それなら納得できる。[...]」)

しかしながら、副詞句である“the thing is”と完全な文の形式であるHere's the thing構文はそれぞれの意味も異なる。“the thing is”は「実は…」というように、事の実情や内実を同定する導入部である。一方、Here's the thing構文は、hereが表す話し手のなわ張り内に、“the thing”すなわち事の実情や内実が存在することを表現する構文である。「なわ張り」という概念は神尾(1990)に拠るが、Here's the thing構文は、「話し手のなわ張り内に実情や内実が存在する」こと、裏を返せば「聞き手には容易には知りたいたいところ、聞き手の知識の及ばないところに、事の実情や内実が存在する」ことを合図する構文である。Here's the thing構文の重要な特性がその存在を提示する機能にあることは、Here's the thing構文の直後に“here it is.”がしばしば生じることがあるからも明らかである。次の(13a-b)は、まず話し手がHere's the thing構文を用いて披瀝すべき実情が存在することを聞き手に合図している。その直後で、(13a)では、“Like I said, this is going to sound a bit off the wall” (さっきも言ったように、ちょっと突拍子もない話に聞こえるかもしれない)、(13b)では、“I know you

don't like to talk about it”（あなたがそれを口にするのが好きじゃないのはわかっている）という追述があるように、聞き手にその話を聞き入れてもらえない可能性を想定していることを表明したうえで、話し手が“here it is.”（聞いてほしいことが本当にあるんだ／あえて言わせて）と発話して実情や内実の存在を改めて伝えている。

- (13) a. “Okay, here's the thing. Like I said, this is going to sound a bit off the wall. But here it is. Maybe we can help each other out. Since you're here at a ski resort, and you don't know how to ski, I could teach you.” (D. St. John, *A Christmas to Remember*)
（「ところで、話したいことがあるよ。さっきも言ったように、ちょっと突拍子もない話に聞こえるかもしれない。でも、聞いてほしいことが本当にあるんだ。お互いに助け合えるかもしれないんだよ。スキー場に来ているのにスキーの滑り方がわからないんだから、僕が教えてあげてもいいんだよ。」）
- b. “Ethan, here's the thing, and I know you don't like to talk about it, but here it is.” He lifts an eyebrow. “I'm scared.” “That's clear, Lucy. When do you think you'll get over that?” (K. Higgins, *The Next Best Thing*)
（「イーサン、話があるわ。あなたがそれを口にするのが好きじゃないのはわかっているんだけど、でもあえて言わせて。」彼は眉をひそめた。「私、怖いよ。」「それはわかっているよ、ルーシー。いつになったら怖さを克服できると思う？」）

ここで、Here's the thing構文の意味を次のように仮定する。

- (14) Here's the thing構文は、聞き手には容易には知りがたい実情や内実の存在を合図する。

Here's the thing構文のthingに冠せられる冠詞は定冠詞theである。すでに同定済みであることを表示する定冠詞theでthingを合図する理由は、発話に先立って、ある実情や内実がすでに話し手の念頭にあることを聞き手に伝えるためであると考えられる。注意しなければならないことは、本構文の話し手にとってはすでに念頭にある実情や内実であっても、聞き手にとっては未知な事柄であることである。そのため、話し手がHere's the thing構文を発話して聞き手には容易には知りがたい披歴すべき実情の存在を合図したにもかかわらず、聞き手がそのような実情や内実が果たして存在するのかと疑問を感じたり(=(15a), (15b))、知りがたい実情や内実など存在しないはずであると思っている(=(15c))場合には、不定冠詞のaをthingに冠して応答する場面の描写が観察される。

- (15) a. “Right. Well, here's the thing.” The thing? There's a thing? “Looks like I won't be able to make it after all,” Rob says. (C. H. Deriso, *Things I'd Rather Do Than Die*)
（「そうだね。ええと、話がある。」話？話なんかあるのか？「結局、行けそうにないんだ。」とロブが言う。）

- b. “So, here’s the thing ...” “There’s a thing?” she asked warily, her blood suddenly running cold. The look on his face didn’t signal anything good. His eyes still on the ground, he said, “I know what your life is like; what you’re like.

(J. Doyle, *Butterfly Ops*)

(「ところで、聞いてほしいことがある。」「聞いてほしいことなんかあるの?」彼女は急に血の気が引き、恐る恐る尋ねた。彼の表情は、決してよいことを知らせるものではなかった。彼の目はまだ地面を見ていた。彼は言った。「僕は君の人生がどんなものなのか、君がどんな人なのか知っているんだ。[...]」)

- c. “Well, here’s the thing ...” I start. “The thing? The THING? There shouldn’t be a thing if you’ve done as I instructed you to do and paid your bill before paying me a visit.” [...] “Actually, there is a thing. The thing is called college. [...]”

(A. Frank and A. Youmans, *Tiny Imperfections*)

(「ところで、話がある。」と私は切り出した。「話? 話だって? そのこと。僕が指示したとおりにして、請求書を支払ってから私を訪ねてきたのなら、話すことなんかはないはずだけど。」 [...] 「ところが実は、あるんだ。それは大学のことなんだ。」)

では、事の実情や内実を聞き手に披歴するのに先立ち、Here’s the thing構文でその存在を合図する必要があるのはどのような場面や文脈であろう。

第一に、Here’s the thing構文が発話されるのは、判明したばかりの新事実の存在を合図する場合である。次の用例では、Here’s the thing構文で実情や内実の存在が合図された直後にIt turns out that節構文が生じて、判明したばかりの情報が披歴されている。なお、It turns out that節構文の意味と機能については大竹(2013a; 2013b; 2015)を参照のこと。

- (16) a. But the scientific point is that the baby rats with more FOXP2 protein in their brains vocalized more than the ones with less. And here’s the thing: It turns out that FOXP2 is also found in the brains of humans, and female humans have more of it.

(D. Barry, *You Can Date Boys When You’re Forty*)

(しかし、科学的に重要なのは、FOXP2タンパク質が脳内に多く存在するネズミの赤ちゃんは、少ないネズミよりも多く発声するということである。さらに重要なことがある。FOXP2は人間の脳にも存在し、女性の方がより多く持っていることが判明したのである。)

- b. “Well, here’s the thing. Turns out they’ve been separated for three months.” “Separated?” That hit her in the gut. (J. C. Black, *Dark Side of the Moon*)

(「ところで、伝えたいことがあるよ。彼らは3ヶ月前から別居していたことがわかったんだ。」「別れた?」それは彼女の心に衝撃を与えた。)

第二に、Here’s the thing構文が発話されるのは、聞き手の予想に反していたり、推論が及ばない実情や内実の存在を合図する場合である。次の用例では、Here’s the

thing構文で実情の存在が切り出された直後に、It is (not) that節構文が生じて、聞き手には容易には知りたない実情や内実が伝えられている。たとえば、(17a)では、現役を続行するサッカー選手が36歳になるということから、聞き手の念頭に成立すると予測される「選手として晩年を迎えようとしている」という解釈が打ち消されて、「どんどん実力を伸ばしている」という実情が聞き手に披歴されている。なお、It is (not) that節構文の意味と機能についてはOtake (2001), 大竹(2021)を参照のこと。

- (17) a. In February, Aduriz will be 36. Which is striking enough as it is. But here’s the thing: it’s not that he’s hanging on, playing out his final years; it is that he is getting better.

(*WorldSoccer*, Nov. 4, 2016)

(2月でアドゥリスは36歳になる。それはそれで驚くべきことである。しかし、知っておくべきことがある。それは、彼が現役を続行し、選手として晩年を迎えようとしているということではない。実は、彼がどんどん実力を伸ばしているということなのだ。)

- b. ‘Here’s the thing, Aunt Margie: it’s just that I really, truly don’t like being a mother. It’s not that I’m tired or a bit emotional. It’s just not the job for me. It’s not that I’m having a few problems bonding with my baby; I don’t even like him! I feel nothing. I want out. Oh, please, please, I want out.’ (L. Moriarty, *The Last Anniversary*)

(「マージーおばさん、聞いてほしいの。私は母親でいるのが本当に心から嫌なだけなの。疲れているとか、ちょっと感情的になっているとかじゃないの。私には向いてないだけなのよ。赤ちゃんとの関係を築くのに問題があるわけでもないのよ。この子が好きじゃないのよ！何も感じない。出て行きたい。ああ、お願い、お願い、出て行きたいの。)」

- c. But here’s the thing. It’s not that I don’t see the battle. It’s that I’m sick of the battle!

(A. Werner, *Take the Land*)

(しかし、言いたいことがある。私は戦いが見えないんじゃない。戦いにうんざりしているんだ！)

第三に、Here’s the thing構文が発話されるのは、誰にも知られていない事実や発聞き手が失念していると想定される実情の存在を合図する場合である。本構文がそのような意識下で発話されていることが“the thing”に後続する限定節の内容や後続する換言表現から確認できる。

- (18) a. Here’s the thing that nobody really knows,” Carrie says, “just what a predatory industry this is. [...]” (P. Bogard, *The Ground Beneath Us*)

(「だれも実は知らないことがある。」とキャリーが言う。「実は、この業界がいかに利権まみれであるかということ。[...]」)

- b. “Here’s the thing that most people don’t know—James was an undiagnosed schizophrenic.” (S.C. Sterling, *The Fear of Winter*)

(ほとんどの人が知らないことがある。実は、ジェームズは診断未確定の統合失

調症だったのだ。)

- c. Because here's the thing that nobody knows, the thing that I can never tell Doctor Hernandez or anyone else. It's because of me that Aurora and Winter and so many of their Brothers and Sisters are orphans, and that so many people are dead.

(W. Hill, *After the Fire*)

(なぜなら、誰も知らないこと、ドクター・ヘルナンデスにも誰にも私が絶対に言えないことがあるからだ。それは、オーロラ、ウィンター、彼らの兄弟姉妹の多くが孤児になり、多くの人たちが亡くなっているのは私のせいなのだということだ。)

- d. “[...] But here's the thing, here's what you don't know: We can and will win this. But not if we continue arguing, taking sides, and accepting defeat before we've had a chance to get started. The only way we can win is by intending to win.”

(A. Noel, *Horizon*)

(「[...]しかし、言いたいことがある。君がわかっていないことがある。僕たちは勝てるし、必ず勝つんだ。しかし、言い争いを続け、どちらかの味方をし、まだ始める機会を得ないうちに負けを認めるようではダメなんだ。僕たちが勝つ唯一の方法は、勝つつもりでいることなんだ。」)

ただし、聞き手にとっては既知の情報であっても、忘れがちな情報であると話し手が判断する情報を合図する場合にも本構文を用いることができる点に注意する必要がある。

- (19) a. But here's the thing that everyone knows, but tends to forget: The best things in life take time. (Parent Cue. <https://theparentcue.org/pcl-71-how-to-teach-your-kids-patience-in-an-impatient-world/>. Accessed 14 Oct. 2023)

(しかし、誰もがわかっていながら忘れがちなことがある。それは、人生で最高のものには時間がかかるということである。)

- b. Here's the thing everybody forgets: Even though Reagan ended up swamping Carter in the election, as late as the middle of October Reagan's own poll-taker had Carter ahead by two percentage points. (J. Ventura, *American Conspiracies*)

(誰もが忘れていくことがある。それは、レーガンが選挙でカーターを圧倒したとはいえ、10月中旬の時点では、レーガン自陣の世論調査ではカーターが2ポイント上回っていたということである。)

- c. Here's the thing that people tend to forget, Gil Hodges was a master. He got the most out of everybody on that team.

(T. Ehrlich and G. Myers, *The 20 Greatest Moments in New York Sports History*)

(人々が忘れがちなことがある。それは、ギル・ホッジスは名選手だったということだ。彼はチームの全員の力を最大限に引き出したのだ。)

第四に、Here's the thing構文が発話されるのは、聞き手には気づきがない事情、

見逃してしまいがちな実情や内実の存在を合図する場合である。

- (20) a. Here's the thing you might not get at first glance: Marlee is spiritually diligent; she's self-aware. (M. Grace, *Getting to Center*)
(あなたが一見しただけではわからないかもしれないことがある。それは、マーリーは実は真面目で、自分に厳しいということである。)
- b. Here's the thing you might not realize: No one looks at an old woman. I can do more for you than you know. (J. Watson, *Star Wars: The Last of the Jedi* #7)
(あなたが気づいていないかもしれないことがあるわ。誰も年老いた女には見向きもしないわ。あなたが思っている以上に、私はあなたのためにできることがあるの。)
- c. And here's the thing you've lost sight of; not all fires are bad. Fire's been used for some pretty good stuff through the ages. Warmth for a start. (P. Hughes, *Probably the Best Kiss in the World*)
(あなたが忘れてしまっていることがある。火がすべて悪いわけではないのだ。火は古くから良いことにも使われてきたのだ。まずは暖をとることにだ。)
- d. But here's the thing that you fail to see. You're just not there on the ground anymore. (A. Gaddis, *Teen Boys' Comedic Monologues That Are Actually Funny*)
(しかし、あなたが気づいていないことがある。あなたはもう地上にはいないのだ。)

第五に、Here's the thing構文が発話されるのは、聞き手が知っておくべき事実、理解しておかなければならない事情の存在を合図する場合である。

- (21) a. Here is the thing you have to keep in mind, almost every little girl dreamed of one day being carried away and taken care of by a prince, and almost every little boy thought he would one day be the prince to some little girl. (S. Branché, *Relationships*)
(ここで心に留めておかなければならないことがあります。それは、ほとんどすべての女の子たちが、いつか王子様に見初められ、かわいがってもらえると夢見ていたということなのです。そして、ほとんどの男の子たちは、いつか自分がどこかの女の子の王子様になると思っていたということなのです。)
- b. Here's the thing to keep in mind. You are responsible for your own happiness. You can ask for what you want, but no one is obligated to please you. (K. Bentley, *The Power to Stop Any Out-of-Control Behavior in 30 Days*)
(心に留めておくべきことがあります。自分の幸せは自分でつかむものなのです。欲しいものを求めることはできますが、誰もあなたを喜ばせる義務はないのです。)
- c. Here's the thing you should know: You might see me around. And when you do, remember that you never saw me up here. (S. Anderson, *Liberated*)
(君に知っておいてほしいことがある。君は私をどこかで見かけるかもしれない)

い。その時は、ここで私と決して会わなかったと思ってくれ。)

ここまで確認してきたように、Here's the thing構文が合図するのは、聞き手には容易には知りたい実情や内実の存在である。そのため、たとえば、今日や明日の日付や曜日といった、聞き手にとって容易に知り得る情報の存在を本構文は合図しえない。

- (22) Here's the thing. { *Today is April 1 / *Tomorrow is Wednesday }.
(話があります。{ *今日は4月1日なのです / *明日は水曜日なのです }。)

ただし、今日や明日の日付や曜日はカレンダーに関する知識から容易に確認できるとしても、4月1日がエイプリルフールであるという事情を聞き手が失念していると推論される場合や、明日が話し手の両親の結婚記念日であるといった聞き手には容易には知りたい事情を表す場合には、本構文を発話することができる。

- (23) a. Here's the thing: Today is April Fools' Day. (The Inquisitr, April 1, 2016)
(思い出してほしいことがあります。それは、今日はエイプリルフールなのだという事です。)
- b. "So, Ronnie. Here's the thing. Tomorrow is my parents' anniversary. It's a little short notice, but would you like to come to dinner with Gwen and me?"
(N. Wheelton, *Veterinary Technician*)
(「ところで、ロニー。話があるわ。実は、明日は両親の結婚記念日なのよ。少し急なお知らせなんだけど、グウェンと私と一緒に夕食に来ない?」)

第六に、Here's the thing構文が発話されるのは、聞き手が聞きたくない情報や、知りたくない実情の存在を合図する場合である。

- (24) a. Here's the thing you don't want to hear: It is imperative that you are disciplined with your diet and exercise.
(C. M. Kiernan, *Pretty Sick: The Beauty Guide for Women with Cancer*)
(あなたが聞きたくはないけれども、知っておくべきことがあります。それは食生活と運動を規律正しく行うことが不可欠だということなのです。)
- b. Well, here's the thing we don't want to know: we are the ones fighting against what we want.
(J. Loree, *The Pull*)
(さて、私たちが知りたくはないけれども、知らなければならないことがあります。それは私たちが、自分たちが望むものと戦う存在だということなのです。)

第七に、Here's the thing構文は、聞き手自身に関する事情や実情の存在を合図する場合にも発話される。次の例では、生物学的見地からの聞き手の身体の実情(=(25a))、聞き手の人格の実情(=(25b))、聞き手の身体的年齢の実際(=(25c))と

いった聞き手自身にかかわる事柄ではあるが、容易には知りたい実情の存在を話し手が本構文で合図した後に、具体的にその実情を披歴している。

- (25) a. Here's the thing: you're not actually who you think you are. The real you—or, more accurately, the whole you—includes all those bacteria, and the “you” that you are familiar with is actually only a small part of the whole.

(S. R. Gundry, *The Longevity Paradox*)

(自覚すべきことがあります。それは、実は、あなたは自分が思っているような人間ではないということなのです。本当の自分、より正確には、あなた全体にはそれらすべてのバクテリアが含まれており、あなたがよく知っている「あなた」は、実は全体のほんの一部にすぎないのです。)

- b. But here's the thing. You're not the same as you were before. You have been altered.

(S. Hamilton, *I Want My Life Back*)

(しかし、知ってほしいことがあります。あなたは以前のあなたとは同じではないということなのです。あなたは変わってしまったのです。)

- c. “Why?” “Here's the thing. You're not getting any younger, Ben.”

(T. Southwick, *The Doctor's Dating Bargain*)

(「なぜだい?」「自覚しなければならぬことがあるよ。君はもう若くはならないんだよ、ベン。」)

さて、ここでHere's the thing構文がどのような場面や文脈中の情報を受けて発話されるのか、言い換えれば、発話の契機となる情報について考えよう。まず、本構文が聞き手の質問を契機として発話される場合がある。次の例では、“What do you want?” (何の用?) という聞き手の質問(=(26a))や、“Why?” (なぜだい?) という聞き手の質問(=(26b))を契機として本構文が発話され、それぞれの質問の回答となる実情の存在が合図されている。

- (26) a. “What do you want?” Emily asked, trying to get his attention off of her daughter. “Interesting question. Here's the thing... Emily... your landlord owes me money.”

(S. Stoker, *Rescuing Emily*)

(「何の用?」エミリーは彼の注意を娘からそらそうとした。「面白い質問だ。話さなければならぬことがあるよ。エミリー。実は、君の家主は私に借金があるんだ。」)

- b. (=(25c)) “Why?” “Here's the thing. You're not getting any younger, Ben.”

(T. Southwick, *The Doctor's Dating Bargain*)

また、聞き手の疑問を契機として本構文が発話されるとき、その疑問は聞き手にとっては答えることが極めて難解である話し手に意識されている。たとえば、(27a)では“Don't I Need Carbohydrates to Fuel Training?” (トレーニングのエネルギー源に炭水化物は必要ないのでは?) という予想される聞き手の疑問を“the million-dollar

question”（正解すれば100万ドルの賞金がもらえるほど難しい質問です）と難問であると評したうえで、Here's the thing構文が発話され、話し手が知っている実情の存在が合図されている。

- (27) a. But Wait! Don't I Need Carbohydrates to Fuel Training? Ah, the million-dollar question. Here's the thing: If you eat mostly carbs, your body will run mostly on carbs.

(B. Greenfield, *Beyond Training*)

(でも、待ってください！トレーニングのエネルギー源に炭水化物は必要ないのでは？ああ、正解すれば100万ドルの賞金がもらえるほど難しい質問です。答えがあります。実は、炭水化物を中心に食べれば、体は炭水化物で動くようになるのです。)

- b. So the million-dollar question is, who do you want to be? Because here's the thing, you get to decide.

(C. Fergusson, *Hot, Healthy, Happy*)

(では、正解すれば100万ドルの賞金がもらえるほど難しい質問は、あなたは誰になりたいのかということだ。答えがある。それは、あなたが決めることなのだ。)

- c. What's the right career for you? Pretty crucial question, right? Also, for many of us, REALLY hard to answer. Here's the thing though – it becomes a lot easier to answer if we accept a few crucial truths...

(Ivy House. <https://www.ivyhouse.co.uk/news-views/articles/finding-your-element/>. Accessed 14 Oct. 2023)

(自分にぴったりのキャリアって何でしょうか？とても大切な問いですよね？また、私たちの多くにとって、答えるのは実に難しい問いでもあります。しかし、答えがあります。実は、答えるのはずっとたやすくなるのです。ただし、いくつかの重要な真実を受け入れればですが。)

このように本構文は、先行文脈や発話場面で話題となっている聞き手の疑問や聞き手には難解な問題に対して、実情や内実の存在を合図する。一方で、次の例のように、談話冒頭で本構文が発話される用例も観察される（以下、用例中の符号#は談話冒頭であることを表示する）。

- (28) a. #Here's the thing – not that I am a wordsmith, but I do love words. Wordiness is my thing, exhibited by my verbose tendencies, in not only a verbal context but a written one as well.

(*The Meridian Star*, Aug 12, 2023)

(文章を書くにあたり、お伝えしておきたいことがあります。私は言葉の達人ではありませんが、言葉が本当に大好きなのです。多弁なのは私の特徴で、会話だけでなく文章にもその癖が出てしまうのです。)

- b. #Here's the thing: today is my birthday. That means I can write about whatever I want.

(Breakfast With Nick. <https://breakfastwithnick.com/2016/02/26/nicks-birthday-edition/>. Accessed 14 Oct. 2023)

(文章を書くにあたり、伝えたいことがあります。今日は私の誕生日なんです。つまり、好きなことを何でも書けるということなんです。)

このように本構文が談話冒頭で使用される場合であっても、話し手(書き手)が思いつくまま唐突に何らかの実情や内実の存在を聞き手(読み手)に合図しているわけではない。(28a) – (28b)はいずれも、これから当該の文章を書くにあたり、その執筆行為の背後の事情、つまり書き手が言葉好きのためたくさん書いてしまう癖があるという実情の存在(=(28a))や、今日が書き手の誕生日なので好きなことは何でも書けるという内実の存在(=(28b))を本構文が合図している。

また、本構文でその存在が合図される実情や内実が正真正銘の真実、事実であることを保証する表現が追述される場合もある。たとえば、(29a)の話し手は、これから披歴する事情が“the stone truth”(正真正銘の真実)であると断定したうえで、実情を披歴している。

(29) a. But here's the thing, and it's the stone truth: knowing you has only ever made me feel one way. (M. Davidson, *Undead and Unstable*)

(しかしお伝えたいことがあります。これは正真正銘の真実なのです。あなたを知って、私が感じたのはただひとつなのです。)

b. Here's the thing. It's a fact. Coca - Cola is the number one best selling brand soft drink in vending machines.

(*Vend: The Magazine of Automatic Merchandising*, Vol. 26, 1972)

(知っておくべきことがあります。そしてこれは事実なのです。それは、コカ・コーラは自動販売機で最も売れている清涼飲料水であるということなのです。)

本節では、Here's the thing構文の意味特性について検証し、本構文が聞き手には容易には知りがたい実情や内実の存在を合図することを明らかにした。次節では、本構文の機能特性を語用論的観点から考察する。

4. Here's the thing構文の機能特性

本節では、Here's the thing構文の機能特性について考察する。Here's the thing構文は話し手が、聞き手には容易には知りがたい実情や内実を聞き手に唐突に伝達することを回避するために、あらかじめ実情や内実の存在を合図する前置き表現である。つまり、話し手が事の実情や内実を披歴するのに先立ち、聞き手が冷静に落ち着いて実情や内実を聞き入れる心の準備、心づもりをさせるところに本構文の重要な特徴がある。

そのために本構文が発話される時、話し手の口調や発話態度にはさまざまな特徴が観察される。また、話し手が実情を披歴するのに先立ち、本構文を発話して聞き手に実情の存在を合図しても、聞き手の反応は好意的な場合もあれば、拒絶的な場合もある。本節では、Here's the thing構文がどのような場面でのどのような機能を発揮するのかを実証的に検証する。

まず、Here's the thing構文の話し手の口調や発話態度を分析する。

第一に、Here's the thing構文は聞き手だけに聞こえるような小さな声や低い声でしばしば発話される。また、聞き手の耳元にささやけるように聞き手に身を寄せるような姿勢で発話されることも確認できる。これは、本構文が、周囲の人たちが知らない実情や内実を聞き手だけに打ち明けると意識の下でしばしば発話されるからであると考えられる。

- (30) a. “Here’s the thing, Jim,” McDowell said, his voice quiet enough that only Holden could hear him. “We’re required to stop and make an attempt, but we don’t have to go out of our way, if you see what I mean.” (M. Cobley, *The Ascendant Stars*)
 (「話があるんだ、ジム」マクダウェルはホールデンにしか聞こえないほど小さな声で言った。「僕たちは立ち止まり、試みなければならないけど、僕が言いたいことがわかるなら、わざわざ外に出る必要はないんだ。」)
- b. She leaned forward and lowered her voice almost to a whisper. “But here’s the thing nobody else knows, the bit I did get from hacking the server. That probe they’re sending to Mars, it isn’t full of terraforming bacteria. No, that’s just a cover story. A diversion. Really, it’s full of souls.” (G. L. Powell, *Ack-Ack Macaque*)
 (彼女は身を乗り出し、ほとんどささやくように声を落とした。「でも、サーバーをハッキングして得た情報の中で、誰も知らないことがあるの。彼らが火星に送っている探査機には、テラフォーミング用のバクテリアで満ちているわけではないの。いや、それは単なる偽装工作だわ。陽動作戦だわ。本当は生命が満ちているのよ。」)
- c. “Tonya, here’s the thing,” he said, lowering his voice and leaning closer to me, speaking almost in a whisper. “I really don’t have any trouble getting women to talk to me initially. The problem is, after a few minutes, they all seem to make excuses and walk away. I can’t figure it out.” (T. Reiman, *The Power of Body Language*)
 (「トーニャ、お話したいことがあるんです。」彼は声を低くして私に体を近づけ、ほとんどささやくように言った。「最初は女性に話しかけられるのに苦労はしません。問題は、数分もすると、みんな言い訳をして立ち去るんです。それが理解できないんです。」)
- d. “Here’s the thing,” Hanratty went on in something of a conspiratorial whisper. “This doohickey isn’t terrestrial, as it turns out.” (R. L. Sterup, *Close to the Edge Down by the River*)
 (「話があるんだ。」とハンラティはひそひそ声で続けて言った。「実は、この怪物は地球上のものではないということがわかったんだ。」)

これに対して、本構文が大きな声で発話されることを示す用例は手元の言語資料では次の1例だけである。(31)では、““Here’s the thing,” Cam said loudly” (「聞いておくれ。」とカムは大声で言った)と本構文の話し手が大きな声で発話した様子が描写されている。しかしながら、その発話場面が「通路を歩きながら」という設定であるこ

とから、いたずらに大声を発しているわけではなく、通路を歩いて移動している聞き手の耳にしかと届くように大きな声で本構文が発話されているものと考えられる。

- (31) “Here's the thing,” Cam said loudly as he strode up the aisle. “I behaved like a jackass the other night, and I intend to make it up to Emma. So I'm eating whatever's in that basket, even if it's disgusting, or if it gives me food poisoning ...”

(C. Madsen, *The Bad Boy's Baby*)

(「聞いておくれ。」カムは通路を歩きながら大声で言った。「エマに埋め合わせをするつもりだ。だから、あのカゴの中に入っているものなら何でも食べるよ。たとえそれが不味くても、あるいはそれで食中毒になったとしてもね。」)

第二に、Here's the thing構文はその発話直前に音声上の休止をしばしば伴って発話される。たとえば聞き手に実情や内実をどこまで話すかを考慮中の休止(=(32a))であったり、思い切って話すまでのためらいの休止(=(32b),(32c))であったりする。このように本構文がためらいの休止を伴ってしばしば発話が開始される理由は、披歴される情報が聞き手にとって耳障りのよくない事情や動揺を与える内実であるために話し手が慎重に心中を整理してから本構文を発話しているからであると考えられる。

- (32) a. Jeff hesitated for a second, considering how much to tell Craig. “Okay. Here's the thing. We've got so much work coming up, and we need to do a crap load of hiring.”

(P. M. Lencioni, *The Ideal Team Player*)

(ジェフは一瞬ためらい、クレイグにどこまで話すべきか考えた。「わかった。話すべきことがある。実は、これから仕事がたくさん入ってくるから、大勢採用する必要があるんだ。」)

- b. I hesitated, then took the plunge. “Here's the thing. When you have several people with the same characteristics turn up dead in quick succession, it can be because you've got a serial killer on your hands.”

(R. L. Byers, *The Things That Crawl*)

(私はためらったが、思い切って言った。「話したいことがある。同じ特徴を持つ人間が何人も立て続けに死んだら、それは連続殺人犯の仕業かもしれないんだ。」)

- c. “Here's the thing, Grant,” I said, trying to call up every ounce of courage I possessed. “My grandparents have the ability to cut me off from my trust fund.”

(R. Schurig, *The One You Want*)

(「聞いてほしいことがあるわ。グラント。」私はありったけの勇気を振り絞って言った。「私の祖父母には、私の信託資金を断つ力があるの。」)

また、本構文で実情の存在を合図した後に、いざ実情を披歴する段になって、躊躇やためらいを表す音声上の休止が観察される場合もある。次の例では、話し手が本構文を発話したものの言葉を詰まらせ、実情や内情を聞き手にどう切り出そうかと思慮している様子が描かれている。

- (33) a. “So here’s the thing.” I paused, trying to think how to word it but my mouth opened and said, “I moved to New York when I graduated college, and to cut a long story short, I met this guy. He was an awesome guy, and we became best friends.”

(A. Davie, *Confessions of a Chatterbox*)

(「ところで話があるわ。」私は言葉を詰まらせ、どう言おうかと考えようとしたが、とっさに口が開き、こう言った。「大学を卒業してニューヨークに引越したんだけど、手短かに言うと、この人に出会ったの。彼はすばらしい人で、私たちは親友になったの。」)

- b. “So, here’s the thing,” I said, wondering how to lay it out. “Everything you told me last time I was here, about how Christopher abused you, I believe it. I believe that what you told me is true.”

(M. T. Edvardsson, *A Nearly Normal Family*)

(「ところで、話したいことがあります。」どう切り出そうか悩みながら、私は言った。「前回ここに来たとき、クリストファーがどのようにあなたを虐待したのか、あなたが話してくれたことすべてを、私は信じています。あなたが私に言ったことは真実だと信じています。」)

- c. “Here’s the thing, Sam,” I begin, not sure when I start speaking what “the thing” is, but I’ve given up planning and strategizing and am now just talking from my gut. “I’m not indifferent to you. But I’m also not the same person I was back in in high school or at that Chicago bar or even when we had those coffees at the bookstore. What makes you think we know each other anymore?”

(M. Brant, *According to Jane*)

(「話があるわ、サム。」私は話を切り出した。話し始めたときには「話すこと」が何なのかははっきりしてはいなかった。でも、計画や戦略を立てるのはやめて、今はただ直感で話している。「私はあなたに関心がないわけじゃないの。でも、高校時代やあのシカゴのバー、それにあの本屋で一緒にコーヒーを飲んだときの私とも違うの。どうして私たちがお互いをわかっていると思うの?」)

話し手が本構文を発話した直後に、実情や内実の披歴を躊躇する場合はほかにもある。たとえば、次の例が示すように、自分の内心を披歴しても聞き手に受け入れられないことを想定して発話を躊躇するような場合がある。

- (34) ‘Well, here’s the thing,’ I said. I was almost afraid to say the next part in case they didn’t like it. ‘You know the way I was really hoping to go to drama camp ... well, I just thought, why don’t we have a sort of drama camp of our own? [...]’

(N. Mac a’Bháird, *Hannah in the Spotlight*)

(「ええ、考えがあるわ。」と私は言った。私は、もし彼らがそれを気に入らなかったらと思うと、その先を言うのをためらいそうになった。「ドラマ・キャンプに行きたいと実は私は考えていたんだけどね。ええと、そうだ、自分たちでドラマ・キャンプのようなものを作ったらどうかと思っただけなの。[...]」)

本構文が聞き手の心情を考慮しながら遠慮がちにしばしば発話されることは次の例からも明らかである。

- (35) a. Now here's the thing – and it's just a personal view. Today, everything is centered on the individual, through social media, Facebook, Twitter, Instagram. Whatever it is, the mantra is, “It's all about me.”

(L. Hamm, *The Hamm Rules on Relationships, Leadership, Community, and Love*)
(さて、話がある。そしてこれは個人的な見解に過ぎない。今日、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムといったソーシャルメディアを通じて、すべてが個人を中心としているのである。それが何であれ、そのマントラは「自分のことばかり」なのだ。)

- b. “Here's the thing, and it's painful to say this to you. But you're not very interesting anymore. You sit at a desk twelve hours a day and you have nothing to show for it except for some numbers that won't exist or be remembered in a week. You're leaving no evidence that you lived. There's no proof.” (D. Eggers, *The Circle*)

(「言わなければいけないことがある。こんなことを言うのは心苦しいが、あなたはもう面白くないのだ。1日12時間デスクに座って、1週間後には存在しないか記憶にも残らないいくつかの数字を除いては、それを示すものは何もない。あなたは生きていた証を何も残していない。証拠もないのだ。)

次に、Here's the thing構文に対する聞き手の応答を観察しながらその発話環境を探ろう。まず、本構文で合図された実情を話し手が話したければ、聞いてもかまわなという姿勢を聞き手がとる場合がある。

- (36) “Here's the thing. Do you want to know the thing?” “If you want to tell me,” he says. (B. Hall, *Charisma*)

(「話したいことがあるわ。知りたい？」「もし君が話したければ。」と彼は言った。)

一方、本構文で実情が披瀝される合図を受けて、聞き手が身を乗り出して積極的に実情を聞きたがる反応を示す場合もある。次の例では、本構文の直後に、聞き手が “I'm dying to hear the thing.” (僕はその事情が聞きたくてたまらないよ) と応答している。

- (37) “Here's the thing...” “Oh the thing!” William moved closer. “I'm dying to hear the thing.” “The thing is, those horses were wrongfully subjugated by the King.”

(N. Makarvk, *Nottingham*)
(「事情がある。」「えっ、事情が！」ウィリアムは近づいてきた。「僕はその事情が聞きたくてたまらないよ。」「実は、あの馬たちは国王に不当に従軍させられ

たんだ。])

また、本構文で実情が披瀝される合図を受けた聞き手が、もったいぶらずに早く実情を話すように話し手に催促する応答も観察される。

- (38) a. “Wait. Look. Here’s the thing. The thing is —” “Hurry up! What’s the thing?” “I think Mr. Cannon went loco or something. I don’t know what’s eating him. I got the part of Romeo and all, but not a lot of guys even tried out. But the thing is ... the thing is that ... Alex didn’t get the lead! Okay, so her audition didn’t go so great, but she’s obviously the best, and he knows it.” (M. McDonald, *The Sisters Club*)

(「待って。待って。話があるよ。こういうことなんだ。」「早く話して。何なの?」「キャノンさんがおかしくなったんだと思う。何が彼を変えたのかわからないよ。僕はロミオの役をもらったんだけど、あまり多くの人が挑戦しなかったんだ。でも、実は、実は、アレックスは主役になれなかったんだよ! たしかに、彼女のオーディションはあまりうまくいかなかった。でも彼女は明らかに1番だし、彼もそれを知っているんだ。])

- b. ‘Here’s the thing, Ariel.’ ‘Shoot!’ I leaned back until I was sitting comfortably. ‘Erika was present in all the good places I went to. And in the good places, there were people with money, people on business.’ (D. Sidor, *Caprice No.25*)

(「話があるよ、アリエル。」「早く話して!」私はゆったりと座れるまで背もたれにもたれかかった。「エリカは私が行ったすべてのすばらしい場所にいたんだ。そしてそのすばらしい場所には、お金持ちや仕事で来た人たちがいたんだ。])

さらに、本構文の発話後に、事の内実を披瀝するのに話し手が躊躇している様子を受けて、聞き手が待ちきれず実情を補完する場合もある。次の例では、実情の披瀝を躊躇している話し手に、聞き手が“the thing”の内容を推測し、“They’ve been carrying it on their menu ever since” (それ以来、店のメニューにそれを載せるようになったんだ) と補完している。

- (39) “They didn’t sell any kind of sandwich!” He exclaims, almost dropping a meatball in the process. “At least they didn’t use to. But I went inside, made some friends, taught them how to make one from ingredients they had, and then here’s the thing ...” “They’ve been carrying it on their menu ever since.” I finish for him.

(J. Wynn, *Zen and the Art of Dying*)

(「彼らはサンドイッチなんて売っていなかった!」ミートボールを落としそうになりながら、彼はそう叫んだ。「少なくとも前は売ってなかった。でも僕が中に入って、友だちができて、ありあわせの材料で作り方を教えたんだ。そこで知ってほしい事情がある。」「それ以来、店のメニューにそれを載せるようになったんだ。」と私は彼に代わって言った。)

ここで、Here’s the thing構文の語用論的含意について考えよう。Here’s the thing構文は聞き手には容易には知りたがたい実情や内実の存在を合図する。事の実情や内実を直ちに伝えるのではなく、本構文を発話することによって、実情や内実の存在に聞き手の注意を引き付けておく段をとる点に本構文の特徴がある。このような段を経て聞き手に実情や内実を披歴する背後には、時として、話し手が聞き手の知識の欠如や現状の認識不足を見越しているという事情がある。たとえば、次の例では、現状が認識できていない聞き手に対して、本構文で事情の存在を合図したうえで、子供に事の次第を根気強く親が教え諭すような語り口で話し手が事情を説明する様子が描写されている。

- (40) “Well, here’s the thing,” Falcon said as if patiently explaining something to a child. “You see, you are pointing that gun at the girl. But she’s not your problem ... I am. If you move it toward me, I’m going to kill you. If you shoot her, I’m going to kill you. If you so much as twitch, I’m going to kill you. The only way you are going to get out of this alive is to drop your gun right now.”

(W. W. Johnstone, F. Austin, *Revenge of Eagles*)

(「いいか、話があるからよく聞くんだぞ。」ファルコンは、まるで子供に教え諭すように言った。「わかるだろう。おまえはあの女の子に銃を向けているんだぞ。でも彼女はおまえの相手じゃないんだ。相手は俺なんだ。もしおまえが俺に銃を向けるなら、俺はおまえを殺す。もし彼女を撃つたら、俺がおまえを殺す。少しでも動いたら、殺す。生きてここから出る唯一の方法は、今すぐ銃を捨てることだ。』)

次の(41a)では、Here’s the thing構文の“the thing”が“The *thing* is never a good thing.” (決してよいことではない) と聞き手に否定的含みをもつ表現と捉えられていることが確認できる。(41b)では、本構文を最近多用する話し手に対して“Why didn’t he just launch into what he had to say?” (なぜ彼は自分の言いたいことをそのまま言わなかったのだろうか?) と本構文の使用に嫌悪感をいだいていることがわかる。(41c)では、話し手の口癖となっている本構文を聞き手が嫌っていることが描かれている。

- (41) a. “Here’s the thing,” he said. The *thing* is never a good thing. “The thing is,” he said, “it’s a, kind of a quirk, of this particular model, that when you swap out the battery, it wipes the user data.” I stared at him.

(J. Kellerman and J. Kellerman, *A Measure of Darkness*)

(「伝えたいことがある。」と彼は言った。“The thing”ということばは決してよいことではない。「実は」と彼は言った。「バッテリーを交換すると、ユーザーデータが消去されるのは、この特別なモデルの一種の欠点なんだ。」私は彼を見つめた。)

- b. “Here’s the thing,” Kip said. He was saying ‘Here’s the thing’ a lot recently. It irritated

him. Why didn't he just launch into what he had to say? "Here's the thing." Dammit, twice!" (B. Weeks, *The Broken Eye*)

(「話したいことがある。」キップは言った。彼は最近、'Here's the thing'とよく言っていた。それが彼をいらいらさせた。なぜ彼は自分の言いたいことをそのまま言わなかったのだろうか? 「話したいことがある。」くそっ、2回も!)

c. "Here's the thing," he said. There was nothing she hated more than Frank McMillan's "here's the thing"s. (S. Linnea, B. K. Sherer, *Treasure of Eden*)

(「話がある。」彼は言った。彼女はフランク・マクミランの"here's the thing"という口癖ほど嫌いなものはなかった。)

本構文の使用に嫌悪感を抱き、拒否反応を示す聞き手を描写する用例は多い。次の例では、本構文を聞くや否や聞き手は実情や内実を耳にすることを拒んでいる。

(42) a. "You know what I mean. Here's the thing—" "Don't do that, Ruzak. Don't tell me what 'the thing' is." "She's all you got. I understand. And you feel you're all she has. You're all that's standing between her and the forces of darkness. [...]"

(R. Yancey, *The Highly Effective Detective Crosses the Line*)

(「僕が何を言いたいかわかるだろう。話しがある。」「やめてくれ、ルザック。『話』が何なのか私に言わないでくれ。」「彼女は君のすべてなんだ。わかるよ。そして、君も彼女がすべてだと感じている。彼女と闇の勢力との間に立っているのは君だけなんだ。[...]」)

b. "I will spill the beans or my guts, whatever comes first. So okay, here's the thing—" "Stop right there," said Nova. "You know I always get nervous when you preface any sentence with 'here's the thing.'" "Give me a chance," said Madeline.

(B. Alb, *The Fairgrounds*)

(「秘密を漏らすか、秘密を打ち明けるか、どっちが先でもいいわ。わかったの。話があるわ。」「そこでやめておいて。」とノヴァが言った。「あなたが『話がある』と前置きすると、私はいつも緊張してしまうの。」「チャンスをくれ。」とマデリンは言った。)

次の例でも、話し手が本構文で実情の存在を合図して、話を切り出したにもかかわらず、聞き手が割って入り、"There's no 'thing.'" (「話」なんてないよ)と発話を拒まれており、実情の存在さえも認めないという聞き手の強い態度がうかがえる。

(43) a. "OK, so here's the thing, we—" "There's no 'thing.' Forget the 'thing.' We're not doing it." "Too bad, because it's already done. And it worked. Now, do you wanna bust my balls like a crusading college freshman, or do you wanna know what I've got?"

(S. N. Lee, *Die Forever*)

(「わかったわ。ところで話があるわ。私たち…」『話』なんてないよ。そんなことは忘れるんだ。僕たちはそんなことはしていないんだ。」「残念だわ。すでに

終わったことなのに。それにうまくいったわ。ところで、あなたは大学1年生みたいに必死に頑張りたいの、それとも私が見つかったことを知りたいの?」

- b. “Here’s the thing...” he began. “There is no ‘thing.’ The only ‘thing’ is that you’re leaving.” (E. Orr, *Trouble on the Doorstep*)

(「伝えなければいけないことがある...」と彼は話し始めた。『伝えなければいけないこと』なんてないわ。唯一の『伝えなければいけないこと』は、あなたが辞めるということだけなのよ。』)

また、話し手と聞き手との間で本構文が応酬されることがある。次の例では、本構文を発話して実情の存在を合図した話し手に対して、聞き手が“No, here’s the thing” (いや、こっちこそ話さなければいけないことがある) と本構文を発話して対応し、聞き手が自分こそ事の実情や内実を知っていると主張する場面が描かれている。

- (44) “Here’s the thing,” Ronin said. “I’ve got some of it, but I can get you the rest.” “No, here’s the thing,” Poole said. “We made a deal. If you can’t pay, your life is forfeit.”

(M. J. Kirby, *Spell Robbers*)

(「話さなければいけないことがある。」とローニンが言った。「少しはあるけど、残りは持ってこられるんです。」「いや、こっちこそ話さなければいけないことがある。」とプールが言った。「約束をしたな。もし払えないなら、おまえの命の保証はないということだ。』)

話し手が本構文で実情の存在を合図しても、“I know ‘the thing’” (私は「その話」をもう知っているのよ) と聞き手に割り込まれる場合もある。

- (45) “[...]and I liked everything you told me in the interview. But here’s the thing —” “I know ‘the thing,’” I said. “Everyone has informed me of it, starting with Mr. Baumgarten.” (N. N. Rue, *Limos, Lattes and My Life on the Fringe*)

([...]インタビューであなたが話してくれたことは全部気に入ったわ。でも、話があるの。「私は『その話』をもう知っているのよ。」と私は言った。「バウムガルテン氏から始まって、みんなが私に教えてくれたのよ。』)

さらに、次の例では緊急通報を受けた救急士が、事態の発生場所ではなく、Here’s the thing構文を発話して「何が起きたのか」という事態を伝えようと合図する通報者に対して“I don’t want to hear the thing.” (僕は通報者の事態の話は聞きたくない) と心中で思っている場面が描かれていて興味深い。

- (46) “This is nine-one-one. What is the address of your emergency?” I slide a bookmark between the pages of the novel I started reading at the beginning of the shift. I start bringing over information on the caller, trying to pinpoint where he is until he gives me a usable address. “Yeah. Man? Hey, man? So here’s the thing.” I don’t want to

hear the thing. “Can we start with the address of your emergency, just in case we get disconnected?” “Yeah. Sure. Sure. But, dude? Can I just tell you what’s going on first?” I purse my lips. “I would really rather start with an address. How about that? Give me an address, then you can tell me what’s going on. Sound like a plan?”

(P. Tomasso, *Nothing Good Happens after Midnight*)

(「こちら911です。緊急事態が発生しているご住所はどちらですか？」僕は交替勤務開始時に読み始めた小説のページの間にしおりを挟む。通報者の発信者の情報を聞いて、使える住所を通報者が教えてくれるまで住所を突き止めようとする。「もしもし、ねえ、話があるから聞いてください。」僕は通報者の事態の話は聞きたくない。「万一、電話が切れたときのために、緊急事態が発生しているご住所からお願いしてもいいですか?」「ああ、もちろん。でもまず、何が起きているのかを話していいですか?」僕は唇をすぼめる。「住所から聞きたいんです。どうですか?まずは住所、それから何が起きているのか話してください。どうですか?」)

本構文は、話し手が事の実情や内実を披歴するのに先立ち、実情や内実の存在を合図することで聞き手が冷静に聞き入れる心の準備、心づもりをさせる働きがある。聞き手に心の準備をあらかじめさせたいうで伝えなければ、聞き手が冷静に対応できないような実情や内実の存在を合図する本構文は、気軽で、友好的な会話にはそぐわないと聞き手に受け止められる場合がある。次の例では、Here’s the thing構文を発話する話し手に対して聞き手が“There’s a thing? And here I thought this was just a friendly chat.” (伝えなければいけないことなんてあるの?ただの楽しいおしゃべりだと思っていたのに)と切り返している。

- (47) “Here’s the thing,” Jasper said, making no particular attempt to soften that segue, and grinning as he did it. “There’s a thing? And here I thought this was just a friendly chat.” (M. Crane, *The Flint Brothers Take Montana*)

(「伝えなければいけないことがある。」と、ジャスパーは、特にその言い回しを和らげようとはせず、ニヤニヤしながら言った。「伝えなければいけないことなんてあるの?ただの楽しいおしゃべりだと思っていたのに。」)

Fiske (2002)は*The Dimwit’s Dictionary: 5,000 Overused Words and Phrases and Alternatives to Them*の中で、“here’s the thing”をIneffectual Phrases (非効果的なフレーズ)、つまり「自分の文章が実際よりも重要であるかのように見せる (appear as though their sentences are more substantial than they actually are)」表現として取り上げ、(48)の“Here’s the thing”は削除される必要があると過剰使用に警鐘を鳴らしている。

- (48) *Here’s the thing*, whoever is mayor must be able to work with the community.
DELETE *Here’s the thing.* (Fiske (2002))

本研究で考察したように、Here's the thing構文は聞き手には容易には知りがたい実情や内実の存在を合図する。しかし、(48)の「誰が市長になるにせよ、地域社会と協力できなければならない」ということは、聞き手には容易に知りがたい事情を伝えているわけではなく、社会通念上の常識の範囲内の内容を伝えている。このような場合にHere's the thing構文を使用することは、あたかも無知な聞き手に事の内実を教示しているといった含意を伝えてしまうため容認されないと考えられる。

5. まとめ

本研究では“{Here is / Here's} the thing”の連鎖をもつ構文をHere's the thing構文と呼び、実際の言語資料を観察しながらその意味と機能を分析した。考察の結果、次のような知見が得られた。

第一に、Here's the thing構文は、「話し手のなわ張り内に実情や内実が存在する」こと、裏を返せば「聞き手には容易には知りがたいところ、聞き手の知識の及ばないところに、事の実情や内実が存在する」ことを合図する構文であることを実証的に明らかにした。

第二に、Here's the thing構文を次の7つの観点から具体的に検証することで、同構文が聞き手には容易には知りがたい実情や内実の存在を合図することを解明した。(i)判明したばかりの新事実の存在を合図する場合、(ii)聞き手の推論が及ばない実情や内実の存在を合図する場合、(iii)誰にも知られていない事実や聞き手が失念していると想定される実情の存在を合図する場合、(iv)聞き手には気づきがない事情の存在を合図する場合、(v)聞き手が理解しておかなければならない事情の存在を合図する場合、(vi)聞き手が知りたくない実情の存在を合図する場合、(vii)聞き手自身に関する事情や実情の存在を合図する場合である。

第三に、Here's the thing構文が発話される契機となる情報の特性、話し手の口調や発話態度、聞き手の応答などを分析することで、同構文の機能と語用論的含意を究明した。

*本研究は2022-2025年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号22K00616「実情や解釈を披瀝する日英語の構文の諸相に関する記述的・理論的研究」(研究代表者:大竹芳夫)の研究成果の一部である。

参考文献

- Fiske, Robert Hartwell (2002) *The Dimwit's Dictionary: 5,000 Overused Words and Phrases and Alternatives to Them*. Portland, OR: Marion Street Press, Inc.
- 神尾昭雄(1990)『情報のなわ張り理論』東京:大修館書店.
- Otake, Yoshio (大竹芳夫) (2002) Semantics and Functions of the *It is that*-Construction and the Japanese *No da*-Construction. In Ionin, Tania, Heejeong Ko and Andrew Nevins (eds.), *MIT Working Papers in Linguistics*. Vol. 43, 143-157. Cambridge, Massachusetts: MIT, Department of Linguistics, and Philosophy.

- 大竹芳夫 (2013a) 「主節部に単純現在形が現れるIt turns out that節構文に関する記述的研究」『新潟大学言語文化研究』第18号, 13-26.
- 大竹芳夫 (2013b) 「S + turn + out (+ to + be + that)節構文の主語要素の選択と出沒に関する意味論的研究」『言語の普遍性と個別性』第4号. (新潟大学大学院現代社会文化研究科「言語の普遍性と個別性」プロジェクト), 1-25.
- 大竹芳夫 (2015) 「知りたい情報の同定と判明を披瀝する英語の構文：It is that節構文とIt turns out that節構文の比較対照」, 深田智, 西田光一, 田村敏広 (編)『言語研究の視座』, 172-187. 東京：開拓社.
- 大竹芳夫 (2021) 『「(の)だ」に対応する英語の構文』(2009, 東京：くろしお出版). Kindle版(電子書籍), Amazon.

辞書

- Collins English Dictionary*, HarperCollins, <https://www.collinsdictionary.com/jp/dictionary/english>. Accessed 27 Oct. 2023.
- Merriam-Webster.com Dictionary*, Merriam-Webster, <https://www.merriam-webster.com/dictionary/dictionary>. Accessed 27 Oct. 2023.
- 『ロングマン英和辞典』, Longman, <https://www.ldoceonline.com/jp/dictionary/english-japanese/>. Accessed 27 Oct. 2023.